

# 北海道の 学校図書館

発行 北海道学校図書館協会  
 会長 門前 智  
 事務局長 齋藤 昇一  
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>  
 印刷所 (株) 有 伸 商 会  
 TEL (011)814-6211

## 平成26年度 青少年読書感想文全道コンクール 入賞者決定!!

今年も全道から、たくさんの素晴らしい作品が集まりました。第1次、第2次審査を経て、入賞者が決定しました。12月7日(日)に晴れの表彰式が行われます。入賞者の皆さん、おめでとうございます。

### 第60回 青少年読書感想文全道コンクール 第40回 北海道指定図書読書感想文コンクール

### 特別賞入賞者一覧

北海道知事賞	* 終わりのない戦争から思うこと * 旅立ち * 「塩狩峠」を読んで	室蘭市大沢小 5年 成田 梨菜 室蘭市翔陽中 3年 阿部 真己 帯広三条高 2年 及川 僚真
北海道議会議長賞	* 「いのちをいただくということ」 * 「かわいそうだ。」の先をみつめて、動物の本当の幸せを考える * 「見すてられる命を見つめて」 * ここに存在する意味を探す旅の途中で * アヴェ・マリアのヴァイオリンを読んで～平和への祈り～	室蘭市旭ヶ丘小 2年 齊藤 緑 苫小牧市北星小 3年 鈴木のぞみ 小樽市望洋台小 5年 宮川 七海 滝川市明苑中 3年 鈴木ありす 札幌光星高 2年 伊澤 佑佳
北海道教育委員会教育長賞	* 「ひまわり」をよんで * 「よかたい先生」を読んで * 幸せの裏で起きていること * 希望という光～苦しみを乗り越えた先に～ * 『絵はがきにされた少年』を読んで	室蘭市旭ヶ丘小 1年 久保 環 室蘭市武揚小 4年 脇坂 亜紀 室蘭市旭ヶ丘小 6年 青柳 凜夏 七飯町大中山中 3年 中島 結和
北海道学校図書館協会会長賞	* 「しゅくだいさかあがり」を読んで * 大切なきょうだい * 思い出でつながっている心 * 『風の中のマリア』を読んで * 美しすぎた青春の壁	岩見沢東高 1年 三井 ゆず 北斗市上磯小 2年 伊藤 紗雪 札幌市藤野小 4年 伊田 隆登 八雲町東野小 6年 三田 愛紗 札幌市星置中 3年 竹達 美里 鹿追高 3年 西田 朱
毎日新聞社賞	* 「キリンがくる日」を読んで * 思い出のバトン * 「ふたり」を読んで * レディが教えてくれたこと * 信実をもって生きる	小樽市花園小 2年 樋口 隼輔 旭川市緑新小 3年 奥野 清花 函館市桔梗小 6年 鳴海 杏 滝川市明苑中 3年 竹内 鈴花 岩見沢東高 1年 目黒舞 鈴花
北海道読書推進運動協議会長賞	* 「きょうしつはまちがうところだ」をよんで * 「花実の咲くまで」を読んで * Friend ship	函館市高丘小 1年 柴田 淳弘 苫小牧市緑陵中 1年 河毛 亜美 士別翔雲高 2年 四ッ辻 悠衣 苫小牧市清水小 6年 播摩谷 京香
北海道青少年育成協会会長賞	* つなみてんでんこ * 自分だけの音 * 勇かな少女マララ	札幌市向陵中 1年 相方 郁香 旭川市知新小 6年 石井 優璃 岩見沢東高 1年 江藤 春花
北海道PTA連合会長賞 北海道高等学校PTA連合会長賞 北海道教育振興会長賞	* ひまわりを読んで * 「ガラスのうさぎ」を読んで * 僕が出した答え * 「人生を豊かに変える3つの習慣」 * 未来を考えるー「福島原発の真実」を読んでー	函館市本通小 2年 荒巻 心愛 函館市深堀小 4年 秋本 萌々花 札幌市新川中央小 6年 佐藤 亮太 滝川市開西中 3年 平手 綾乃 函館白百合学園高 2年 小林 夏帆 札幌市あやめ野中 2年 小川 未空
北海道教育文化協会賞	* 私の夢 * いのちのカタチ * 心のゆたかさについて * 大切な命 * よろしくともだち * 教育が光であるということータンザニアの少年と出会ってー	士別翔雲高 2年 四ッ辻 麻衣 小樽市朝里小 4年 吉河 姫菜 室蘭市海陽小 5年 茅野 智佳 室蘭市地球岬小 2年 竹野 妃穂
はるにれ賞 教育出版社賞 文研出版社賞 北海道図書教材協会賞 図書館ネットワーク賞 北海道教育評論社賞 光陽社賞 学校賞	* 「笑顔の架け橋」を読んで * 海を守りたい * 「ぼくだよ ぼくだよ」をよんで 小学校の部 中学校の部 高等学校の部 * 印は、全国コンクール応募北海道代表(自由・課題)作品です。	網走市南小 4年 田中 飛鳥 小樽市色内小 4年 長谷川 華子 函館市榎法華小 6年 川口 遥平 室蘭市海陽小 2年 福田 愛楽 室蘭市立旭ヶ丘小学校 滝川市立明苑中学校 北海道岩見沢東高等学校

**北海道知事賞****終わりのない戦争から思うこと**室蘭市立大沢小学校 5年 **成田 梨菜**

「何よりも平和がほしい。」私はこの本に出会い、人が人をきずつけることの残こくさときずつけられたひがい者の苦しみについて、思い知ることになった。

サクバーという、手と両耳を切断された男性がいた。彼の手と両耳を切断したのは、なんと、私と年も変わらない子ども兵士だった。信じられないが、彼らは流れ作業のように、人々の手や足を切り落とし、笑いながら銃でうち殺していたという。しかし、彼らが兵士になったのには、悲しい理由があったのだ。それは、何もしていない両親を目の前でうち殺され、大人たちによって連れ去られ、ま薬という力にあやつられ、子ども兵士とさせられたからなのだ。

この平和な日本に生まれ育った私には、しょうげきの過ぎて、理解することがとてもむずかしく、先へ読み進むことが出来なかった。私の生活には、いつも父と母がいる。あたり前だと思っていた。しかし、ムリアはちがったのだ。もし、私がムリアだったら、どうなっていたのだろうか。悲しみを断ち切ることが出来ずに、自分も両親のあとを追ってしまったかもしれない。そんな悲しみの中、ムリアはアジトへ連れ去られ、戦わされていたのだ。好きで人をきずつけ、殺していたのではないのだ。彼らは、ひがい者でもあるのだ。

サクバーは、それを理解した上で、「たとえ目の前に、子ども兵士がいたとしても、責めない。」と言った。その言葉のうらには、自分をきずつけ苦しめた子ども兵士を、うらみ責めたとしても、それは自分が一番求めている平和にはならないのだという思いが、伝わってくる。私は、何ともいえ

ないこの思いに、なみだが止まらなかった。

戦争とは、何なのだろう。最もとうとい人の命をうばい合い、きずつけ、苦しめ合う意味とは、いったい何なのだろう。きっと、答えがないからこそ、世界のあちこちで今もなお、戦争が起きているのではないのだろうか。

今、現在、シエラレオネでは、内戦が終わり、復興へと向かっている。そして、ムリアは今、全てをくい改め、この国の大統領になり、戦争の無い国にしようと、第一歩をふみ始めている。けれども、ムリアが殺してきた人々に、決して明日は来ないのだ。

戦争に無縁となり、人々がおだやかにくらせる平和なこの国、日本を今、改めてほこりに思う。しかし、政府は、七月に集団的自衛いけんの行使をみとめる見解を示したことを新聞で知った。日本は、平和な国であり続けることができるのだろうか。

私は、この本を読まなければ戦争について、こんなにも深く考えることは無かっただろう。そして、いつかこの世界から、戦争が無くなりますようにと、願わずにはいられない。

平均じゅ命が世界で最も短いというシエラレオネ。この国の名産品であるダイヤモンドのように、この国に光り輝く未来がおとずれることを心から願う。

(後藤健二 著『ダイヤモンドより平和がほしい

子ども兵士・ムリアの告白』)

## 北海道知事賞

# 旅 立 ち

室蘭市立翔陽中学校 3年 阿部真己

「わたしは今がいちばん幸せだよ。」  
これが、エルマおばあさんが最後に残した言葉であり、この本の題名である。

エルマおばあさんは、多発性骨髄腫という血液のがんに侵されながら、一日一日を大切に生きていた芯の強い女性だ。

私の祖母も、エルマおばあさんと同じ病気で、自宅療養をしている。「多発性骨髄腫」という名前は、身体の色々な部位の骨髄に、がん細胞が増殖することに由来する。骨髄腫細胞が血液を造られなくなり、エルマおばあさんのように鼻血が止まりづらくなるそうだ。骨ももろくなり骨折しやすくなってしまう。完治させることが難しく、化学療法が主である。この本は、エルマおばあさんの在宅ホスピスの介護日記だ。

筆者は、フォトジャーナリストでエルマおばあさんのことを本当のおばあさんのように慕っていた。私はこの本を、時間が過ぎるのも忘れ読み続けた。その中で、筆者がおばあさんの家族がエルマおばあさんを尊敬し、愛している理由がよくわかった。

いつも前向きなエルマおばあさんは自分の哲学を持っている。本の中で、私の心に深く残った言葉がある。それは、「人生で起こるできごとには、すべて意味があるんだよ。人と人が出会うのは、おたがいにその出会いを必要としていたから…」私が想像していた範囲よりずっと大きな世界が存在する。

私は三年間ジャズバンド部に所属している。部活を続けていたからこそ増えた仲間との出会いは本当に奇跡なんだと思う。もし、エルマおばあさんの言うように、おたがいにその出会いを必要としていたとしたら運命だ。これからの人生の中で、そんな運命が何十回も、何百回もあるのだと思うと楽しみで仕方がない。そして、一つ一つの出会いを大切に、エルマおばあさんのように、その人と出会った意味を考えてみたいと思う。

しかし、「今がいちばん幸せだよ」と言いながら、笑顔を見せたエルマおばあさんの最後の言葉に、私は疑問を抱いた。けれどそれは、本を読み進めるうちにすぐに理解できた。エルマおばあさんは「死」をマイナスと考えていない。それに、筆者により良く死ぬとはどういうことかを教えてくれたそうだ。エルマおばあさんは、「死ぬのは永遠の別れではない。」「死んでも違う世界に移行するだけだよ。」「わたしの遺灰を海にまいた後は、みんなで楽しく飲み食いするんだよ。」と言っていた。こんな言葉から私が感じたのは、エルマおばあさんが愛

されている以上に家族を愛していたということ。自分がこの世界からいなくなった後の家族を想っているからこそ言える言葉だ。死ぬのは、恐いものだと思っていた私は、衝撃を受けた。命がある限り、いつか死を迎えてしまう。仕方のないことだけれど、私はエルマおばあさんのように、弱音を吐かず、いつも前向きではられないと思う。それも、家族に心配をかけたくないという愛なのだろうか。エルマおばあさんは、自然にさからってまで延命はしたくない、と化学療法を終わらせる決断をした。けれど家族は、治療を続け、少しでも長く生きてほしいと願っている。その家族が、最終的に尊重したのは、エルマおばあさんの意志だった。これも、エルマおばあさんが、家族に愛されていた証拠だと言えるだろう。本を読み終わった私は、死のとりえ方が大きく変わっていた。死を「旅立ち」と表現することで、愛する人がいなくなったのではなく、遠くに行ってしまったけれど心は繋がっていると考えることができる。それに、いつも見守ってくれていると思うと心強いし、安心できるはずだ。

私はおばあちゃんっ子だ。幼い頃から、毎日のようにトランプやオセロをして遊んでいた。そんな祖母が、がんと告知された昨年の夏、おばあちゃんっ子だった分、私はとても驚いた。こんなに元気なのに…と何度も思った。信じることができなかった。現在は、エルマおばあさんと同じく、化学療法をやめてしまった。私の母や叔父も、延命を願いながらも祖母の意志を一番に考え、意見を尊重した。自らの意志で、延命治療を受けずに自然な最期を迎えるのを、祖母は望んだ。祖母とエルマおばあさんが選んだ旅立ち方を、尊厳死というそうだ。これから祖母の病状が悪化し、いつか家族で看取る日が必ずくる。私も、エルマおばあさんと家族のような関係を築いていきたいと思っている。だが、そのためにはどうしたら良いのだろうか。何気ない会話で笑い合ったり、一緒に食事を楽しんだり、そんな平凡な日常こそが、祖母にとっての幸せなのではないか。それはきっと、エルマおばあさんも同じだったと思う。エルマおばあさんは、死を現実として受け入れるための心の準備ができていた。自宅で限られた人生を、少しでも充実したものになりたいと願っていたはずだ。祖母にとって、幸せな最期を迎えることができるように、精一杯支えていきたい。

(大塚 敦子 著『わたしは今がいちばん幸せだよ  
エルマおばあさんケア日記』)

## 北海道知事賞

### 「塩狩峠」を読んで

北海道帯広三条高等学校 2年 及川 僚 真

もしも今、「自分の命を犠牲にして他人の命を救えるか」と問われたら、僕は迷わず「自分には無理なこと」と答えるだろう。それは何故か。強い信仰心を持たないからか。人間的に未熟だからなのか。それさえわからない。だが、できないと答えることだけは明確な気がする。

犠牲、信仰、愛、命。この小説を読み終えた今、これらの言葉が僕の頭の中でぐるぐる回っている。そして釈然としないものが胸につかえて僕を苦しめている。この思いはいったい何なのか。それを整理したい一心でこれを書いているような気がする。

小説「塩狩峠」の話を、僕がまだ小学生だった頃、母から聞いたことがある。その時は、「何て立派な人なんだろう、尊敬するなあ」と感心した記憶が残っている。時は流れ、高校生となった今、実際に自分で読んでみると、尊敬の念を抱いた気持ちだけではなく不思議な感情が溢れてきた。主人公信夫は自分の信仰に忠実にその命を全うし、ある意味満足しているかも知れないが、幼い頃より信夫を愛し育ててくれた親、無二の親友、信夫の影響でキリスト教にふれ、感動してくれた仲間達そして何より信夫との結婚を夢みて病と必死に闘ったふじ子の存在はどうなるのか。そこに未練は感じないものなのか僕には理解できなかった。むしろ信夫の死と向き合い、これからの長い人生を歩んで行かなければならない今を生きる人々の痛みの方が僕にはわかるような気がする。ぽっかりと空いた心の穴を埋めることの難しさを信夫はどう考え、死んで行ったのか。自らの命と引き換えにしてまで守りたいと願った強い力、それが信仰というものなのだろうか。

信夫をとり巻く人々もまた、キリスト教徒が多数いた。言いかえればその影響で信夫もまたキリスト教徒になったのだ。だから、信夫の犠牲の死の意味を僕よりは深く理解し、受けとめているのかも知れない。つらくないと言えば、それは嘘になるだろう。もっと生きていてほしかったと願う思いもきっとあったに違いない。だが、それに勝るものを彼らももっていたとしたならば、それこそがキリストを信仰する心なのかも知れない。聖書の教えに導かれ、生きて行く。そこに幸福を感じているのだろう。穏やかに、物事に逆らうことなく運命を受け入れる。そしていつの日か信夫を失った心の傷も全て大きな愛となって人々の心に広がっていくものと願っているのかも知れないと思う。

小説の中にこんな聖書の言葉がある。「一粒の麦、地に落ちて死なずば、唯一つにて在らん、もし死なば、多

くの果を結ぶべし。」この文章を考えてみた。麦は自らの実を地に落とすことで後にたくさんの種から新しい麦の芽がうまれるというような意味と僕は解釈した。これならば、キリスト教を信仰しない僕でも普段の生活の中に生かせるのではないかと思った。命を分け与えることは無理だが、例えば、自分が学んだこと、感動したこと、苦しんだこと、疑問に思ったことなどを、まわりの人に口に出して伝えれば、何らかの形でその人の役に立つこともあるかも知れない。僕の読んだ本の内容や、感想を人に伝えることで、もしかしたら誰かの悩みの解決の糸口になるかもしれないし、そこまでは至らなくても、自分のことを心配してくれた思いがその人の心に光を与えられることもあるだろう。たとえどんなにわずかなことでも、惜しみなくまわりの人達とわかち合おうとする思いが、人間関係が希薄になったと言われる現代社会に、明るい希望を与えられるのではないかと考えた。

幼い頃、「塩狩峠の主人公は立派な人だな。」と単純に、しかし清らかな思いで尊敬できていた僕。でも今は、自分の信仰のために、まわりの愛する人々の心に暗い影を落としてまでもそれを全うした主人公に、悪い言葉だが、「それは自己満足なのではないか」と感じてしまった僕がいる。様々なことを経験し、色々なものを見て聞いて、そうしているうちに僕の心は汚れてしまって、真っ直ぐに純粹に感動する気持ちをどこかに忘れて来てしまったのだろうか。悲しい思いも残る。だが、聖書の中の言葉に心が引き寄せられている事実もある。揺れ動く思いの中で、思い起こせば、何て不思議な力を持つ小説なのだろうという思いが溢れて来る。

生きて行くためには様々な試練を乗り越えて行く力が必要である。その力は、経験から生まれる自信であったり、身近な存在の手助けであったり、人によってはそれが信仰なのかも知れないとこの小説を読んで思った。

今日もどこかで、聖書の教えに従い、穏やかに、世の中の幸を祈る人がきっといっぱいいるだろう。でもそれはやっぱり今の僕にはまるで雲をつかむような遠い世界のことになってしまう。これがこの小説を読んで感じた十七歳の等身大の僕の率直な思いである。

(三浦綾子 著『塩狩峠』)

## 北海道議会議長賞

## 「いのちをいただくということ」

室蘭市立旭ヶ丘小学校 2年 齊藤 縁

いのちをいただくをよんで、ぼくはとてもかわいそうだった。なぜなら大せつにそだてられたうしのみいちゃんがころされてしまうからだ。そして、みいちゃんのことが大すきだった女の子の気持ちを考えると、ぼくは思わずぼつりとなみだが出そうになった。

ぼくはお肉が大すきだ。とくにうしのお肉が大すきでたまらない。なつ休みのキャンプでたべた、すみでやいたカルビはさい高にうまかったし、おばあちゃんのいえで出してくれたあまいしょうゆのにおいがするすきやきは、思い出ただけでおなかがグーとなる。

さか本さんは、うしをとくしごとをしている。うしをころしてお肉にするんだ。そんなことをするなんて考えたこともなかった。ぼくは、いままで、おいしいなあとだけ思って、まい日のようにお肉をたべていたんだ。

おかあさんといっしょに行くスーパーで見るお肉は、うしの形もぶたの形もとりの形もしていない。やけばすぐにたべられるようになっている。もしも、目の前でうしがころされてしまうすがた

を見たら、ぼくは、かわいそうでたべることができなくなるかもしれない。でも、うしがころされたからこそ、おいしくたべてあげないとかかわいそうだとも思う。「いやだ、たべたくない。」なんて言って、のこしてしまったら、ころされたうしにしつれいだ。うしだけじゃない。うしを大せつにそだててきた人や、ぼくたちにかわってうしをといてくれる、さか本さんのような人たちにもしつれいだ。

うしやぶたやとりだけじゃない。魚やくだもの、やさいにもいのちがある。ぼくがたべているものは、ぜんぶいのちだったんだ。たくさんのいのちがぼくとつながっている。ぼくはいのちをいただくことで、けんこうな体で、元気にすごすことができる。だから、まい日の「いただきます。」と「ごちそうさま。」を、これからは、もっと、もっと、かんしゃのきもちをこめて言うことにしよう。

(坂本義喜 原案・内田美智子 作・魚戸おさむと ゆかいななかまたち 絵『いのちをいただく』)



## 総 評

審査委員長 栗原 靖 (札幌市立八軒小学校校長)

今年度、青少年読書感想文全道コンクールは第60回、北海道指定図書読書感想文コンクールも第40回という節目を迎えました。近年、応募数は微増し続けておりまして、今年度は全道各地から653点もの作品が寄せられました。各支部で厳正に審査され選抜された作品が揃い、指導に当たられた道内の先生方の読書教育への熱意と子どもたちの豊かな読書環境を支えてくださっている保護者の皆様の温かな思いを強く感じました。今回の最終審査におきましても、総勢25名の審査委員が5部門に分かれ、読書感想文に込められた子どもたちの思いをしっかりと受け止めようと、時間をかけ厳正に審議を進めて参りました。

小学校低学年の作品には、子どもらしい読み取りをし、自分を振り返り、これからの過ごし方に取り入れていこうとする素直さを感じました。中学年の作品には、本の世界に入り、自分事として考え表している作品が多くありました。生活経験と結びつけ自分なりの考えや思いが素直に綴られていました。高学年の作品には、本の内容をしっかりと受け止め、現在の自分自身や将来の夢、さらには世の中の出来事と重ねて思いや考えを深めていることを、文章構成や表現を工夫して書いている作品が多く見られました。中学生の作品には、10代の感性を感じる作品にたくさん出会えました。作中の人物の生き方に、自分の在り様を振り返り、また、未来を真剣に見つめる姿を感じました。高等学校の作品には、読み取った筆者の考えを明確に表現しつつ、現実の自分の悩みや思いと重ね合わせて作品世界を深く読み取っているものも多く見られました。

本全道コンクールは60回という、人と言えば還暦を祝う年を迎えました。今後ますます多くの児童生徒の皆さんが豊かな読書体験をし、心を揺り動かされた感動や自らの生き方への熱い思いをしっかりと書き綴り、応募し続けてくれることを願ってやみません。

**北海道議会議長賞****「かわいそうだ。」の先をみつめて、動物の本当の幸せを考える**

苫小牧市立北星小学校 3年 鈴木 のぞみ

私は、しょう来、獣医になりたいと思っています。ウトナイ湖鳥獣保護センターに野生動物せん門の獣医がいると知り、夏休みにどんな仕事をしているのか調べてきました。

私はそこで出会った獣医さんから、野鳥のひなが巣から落ちて弱っていてもひろってきてはいけなと教わりました。私は動物が弱っていたら助けてあげるのがいいことだと思っていたので、とてもびっくりしました。

帰ってからその話をお母さんにすると、お母さんは「この本を読むと、獣医さんの言ったことが少しわかるかもしれないよ。」と言い、この本をしょうかいしてくれました。

この本の作者、齊藤慶輔さんも釧路に住む野生動物せん門の獣医です。野生動物せん門の獣医は、日本にはあまりいないそうです。この本には、齊藤さんが野生動物せん門の獣医として、何を考え、どんな仕事をしているのかが書かれています。

野生動物の獣医と人にかわっている動物の獣医には、二つの大きな違いがあります。

一つは、みる動物の違いです。野生動物の獣医は、ペットはみません。野生動物の中でも、人間のせいでけがをしたものだけをみます。だから、野生のままの生活で死にかけていても手当てしないそうです。私はウトナイ湖の獣医さんが野鳥のひなをひろってきてはいけなと言ったことと同じだと思いました。

二つ目は、仕事のゴールのちがいです。人にかわっている動物の獣医は、動物のけがや病気を治し、かい主に動物を返すと仕事が終わります。し

かし、野生動物の獣医は、動物のけがや病気を治した後、自然に帰すまでが仕事です。

齊藤さんは、野鳥がなつかないようにするため、名前をつけません。どうしても名前が必要な時は、ひなでも大人でもオスでもメスでも「ピーコ」とよびます。私は初め、なぜ野鳥が人になつてはいけなのかわかりませんでした。私は野鳥が人になつた方が治りようしやすと思ったからです。

けれど、読み進むうちに、私の考えは間違っていたとわかりました。野鳥は人を全く怖がらなくなると、自然の中で自分の身を守れなくなるからです。また、野鳥は人からえさをもらうことを覚えると、自分からえさを取らなくなってしまうからです。齊藤さんは野生動物の獣医として、野鳥と仲良くなることよりも、野鳥がもう一度自然で生きて行くことを大切にしていることがわかりました。

齊藤さんは時には野鳥の死因を調べます。同じことが原因で、他の野鳥が命を落とさないようにするためです。今の私なら、死んだ野鳥を見たら「かわいそうだ。」という気持ちでいっぱいになり、何もできず、泣いていると思います。「かわいそうだ。」の先を見ている齊藤さんはすごいなあと思いました。

いつか私も、齊藤さんのように動物の本当の幸せを思い、そのために自分に何ができるのかを考えられる獣医になりたいと思います。

(齊藤慶輔 著『野生動物のお医者さん』)

# 第40回 北海道指定図書

平成26年度  
青少年読書感想文全道コンクール

## 北海道の先生がおすすめる本

主催/北海道学校図書館協会・毎日新聞社北海道支社  
後援/北海道・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会  
選定協力/北海道読書推進運動協議会

**小学校低学年の部**

**ちいさなはくさい**  
くどうなおこ/さく  
ほてはまたかし/え  
小峰書店  
定価1,400円+税

**ぼくだよぼくだよ**  
きくちちき/作  
理論社  
定価1,500円+税

**キリンがくる日**  
志茂田景樹/文  
木島誠悟/絵  
ポプラ社  
定価1,300円+税





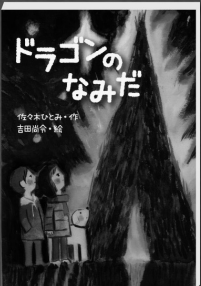


**小学校中学年の部**

**ぼくはニコデム**  
アニエス・ラロッシュ/文  
ステファニー・オグソー/絵  
野坂悦子/訳  
光村教育図書  
定価1,300円+税

**あいしてくれて、ありがとう**  
越水利江子/作  
よしざわけいこ/絵  
岩崎書店  
定価1,200円+税

**ドラゴンのなみだ**  
佐々木ひとみ/作  
吉田尚令/絵  
学研教育出版  
定価1,300円+税

**小学校高学年の部**

**北限の稲作にいでむ**  
『百万石を夢見た男、中山久蔵物語』  
川嶋康男/著  
農山漁村文化協会  
定価1,300円+税

**クロテン**  
北国からの動物記 6  
竹田津実/文・写真  
アリス館  
定価1,400円+税

**ガチャガチャ☆GOTCHA!**  
カプセルの中の神さま  
宮下恵菜/作  
宮尾和孝/絵  
朝日学生新聞社  
定価1,000円+税





**中学生の部**

**毎日新聞社 記事づくりの現場**  
深光富士男/文  
佼成出版社  
定価1,500円+税

**レディが群れに帰るまで**  
母を亡くした子(バンジャー)と飼育員の物語  
野谷悦子/著  
寿郎社  
定価1,400円+税




## 北海道の本を読みましょう!

第60回 青少年読書感想文全道コンクール  
第40回 北海道指定図書読書感想文コンクール

感想文は夏休み明けに、学校に出してください。  
詳しくは、「応募のきまり」をご覧ください。

## 優 秀 賞

## 小学校（低学年）の部（11名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・ミツバチを読んで	小 山 洪 人	函館市深堀小	2年
・「ちょっとだけ」を読んで	村 上 陽 葵	留萌市留萌小	2年
・「ママ、ぼくのことすき？」をよんで	西 谷 潤 紀	函館市高丘小	1年
・バナナのはなし	工 藤 航 樹	室蘭市海陽小	1年
・ぼくは、いのちをいただいている	小 野 琉 峯	函館市北美原小	2年
・「ミルクこぼしちゃだめよ！」をよんで	安 田 晴 香	室蘭市八丁平小	1年
・「ミルクこぼしちゃだめよ！」を読んで	高 橋 愛 子	増毛町増毛小	2年
・さきちゃんとわたし	松 本 雛 野	旭川市永山西小	1年
・ひまわりのひみつ	成 川 心 満	室蘭市旭ヶ丘小	1年
・キリンにありがとう	村 田 蔵之介	北斗市萩野小	2年
・「キリンがくる日」をよんで	山 田 笑莉奈	音更町東士幌小	1年

## 小学校（中学年）の部（12名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・私の心	川 村 綾 音	北斗市萩野小	4年
・ココロ屋を読んで	吉 田 柚 杏	函館市中の沢小	4年
・トリセツはすごいな	大 隅 透	函館市深堀小	3年
・「生きること」	古 田 美 羽	釧路市愛国小	4年
・「公害病から世界を見続けた医師」	松 島 丈 士	小樽市緑小	4年
・みんなが学校で勉強できたら	坂 田 穰	旭川市朝日小	3年
・いやなものでも変身できる	田 原 遥	室蘭市高砂小	4年
・「よかたい先生」を読んで	伏 見 優 花	室蘭市知利別小	4年
・「ドラゴンのなみだ」を読んで	長谷川 斐 生	帯広市つつじが丘小	4年
・「ぼくはニコデム」を読んで	小 川 弓 來	小樽市緑小	3年
・「ぼくはニコデム」を読んで	北 川 美 咲	室蘭市八丁平小	4年
・『ドラゴンのなみだ』を読んで	金 札 涼 汰	北斗市谷川小	3年

## 小学校（高学年）の部（12名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・悲しみをのりこえて	三 木 優 奈	岩見沢市第一小	5年
・「強く、やさしく」	ガットラヴ宇詩	岩見沢市栗沢小	6年
・届け歌声	中 山 樹	森町濁川小	6年
・命のバトンタッチを読んで	佐々木 望	小樽市最上小	6年
・「マッチ箱日記」	永 井 ことみ	函館市北美原小	6年
・進化の秘密	小 林 拓 暉	室蘭市知利別小	6年
・「マッチ箱の中の思い出」	秋 江 峻	函館市港小	5年
・生きる	伊 藤 海夏斗	森町濁川小	6年
・「クロテン」を読んで	秋 山 一 真	増毛町別荘小	5年
・『努力した道すじ』	木 原 穂 高	札幌市八軒西小	6年
・百万石の大きな夢	藤 井 帆 海	岩見沢市栗沢小	5年
・「心の中の神様を信じて」	長谷川 絢 加	帯広市つつじが丘小	6年



# 優 秀 賞

## 中学校の部 (15名)

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・「復讐プランナー」を読んで	齊 藤 里 奈	岩見沢市光陵中	2年
・堂々と真つすぐ前を見て	渡 部 真 緒	八雲町野田生中	1年
・『五体不満足』を読んで	西 川 実 玖	小樽市松ヶ枝中	1年
・イチカシが追い求めること	林 里 奈	滝川市江陵中	3年
・僕の心にも届いた豎琴の調べ	小 西 海 翔	札幌市前田北中	1年
・「集団自決」なぜいのちを捨てる教育	大 内 菜々恵	室蘭市翔陽中	3年
・「たとえどんなに離れたって」	黒 光 玲緒奈	砂川市砂川中	3年
・「事象は多角的に捉えよ」	李 基 淵	函館ラ・サール中	3年
・音楽の力	田 中 咲 良	滝川市明苑中	2年
・僕は何を語りつぐべきなのか	ジミー・スティーン	森町森中	3年
・語りつぐ者	館 山 紋 奈	遺愛女子中	2年
・「語りつぐことによって」	山 崎 鈴 穂	滝川市明苑中	2年
・自分だけの音～星空ロックを読んで～	山 田 美 桜	苫小牧市凌雲中	1年
・人とのつながりからできる新聞	渋谷 茜 音	札幌市北辰中	1年
・「レディが群れに帰るまで」を読んで	丹 野 奈 那	旭川市東光中	3年

## 高等学校の部 (11名)

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・限りある時の中で	藤 堂 衿 菜	旭川藤女子高	2年
・あしながおじさんの気持ち	武 井 七 海	旭川藤女子高	2年
・シェイクスピア『ハムレット』	川 野 天香理	札幌啓北商業高	2年
・「無抵抗は罪なりや?」	高 橋 遥 奈	留萌高	3年
・葉蔵～本の中のもう1人の自分～	鉢 呂 千 絵	函館中部高	1年
・「心の目で見る」ということ	西 村 ゆ う	清水高	2年
・人間合格	安 土 菜津希	清水高	2年
・小さき者を読んで	稲 葉 有 咲	鹿追高	3年
・アヴェ・マリアのヴァイオリンから学んだこと	工 藤 絵理奈	函館中部高	1年
・音楽が繋げてくれたもの	森 山 響 子	旭川東高	2年
・「生命とは何だろう?」を読んで	太 田 幹	帯広緑陽高	3年

### ◆感想文集『北海道の読書』(平成26年度版)の普及を 第60回青少年読書感想文全道コンクール入賞作品集

○小学校版 (1,000円)

特別・優秀・優良入賞者 全作品を掲載

○中学校・高等学校版 (1,000円)

特別・優秀・優良 (一部) 入賞者作品を掲載

【申し込み・問い合わせ先】

北海道学校図書館協会HP > 読書感想文コンクールについて > 北海道の読書について  
 札幌市立西岡南小学校 教諭 佐藤秀則 FAX 011-582-1590

# 優良賞

## 小学校(低学年)の部

小平町鬼鹿小	2年	村井 稜弥
岩見沢市幌向小	2年	高橋 利久
小樽市潮見台小	2年	澤田 実典
札幌市日新小	2年	玉川 悠斗
北斗市萩野小	2年	綿谷 玲菜
旭川市春光小	2年	笠原 咲
札幌市共栄小	2年	橋田 芽依
岩見沢市幌向小	1年	熊林 大登
苫小牧市若草小	2年	加藤 優和
室蘭市海陽小	2年	本所 優奈
札幌市桑園小	1年	岡 七海
滝川市東小	2年	藤森 美咲
小樽市花園小	2年	細田 遥香
旭川市緑が丘小	2年	細木菜々子
占冠村トマム小	2年	黒沼 遼
室蘭市水元小	2年	七崎 凜帆
苫小牧沼ノ端小	2年	佐々木結花
音更町東土幌小	2年	河田うて那

教育大附属函館小	4年	吉田 千桜
士別市士別小	4年	中川真優子
室蘭市武揚小	4年	池田 結
岩見沢市第二小	3年	有原 海音
北斗市萩野小	4年	日景 悠斗
札幌市日新小	4年	嶋津 亜美
士別市士別南小	4年	藤田 千草
帯広市緑丘小	4年	中澤 紬
室蘭市旭ヶ丘小	3年	大西 澄佳

帯広市川西中	2年	西野 侑未
室蘭市翔陽中	3年	大川 侑乃
遺愛女子中	1年	佐野 有紗
滝川市明苑中	3年	太田 裕斗
藤女子中	2年	植竹 志帆
砂川市砂川中	3年	佐々木琉奈
札幌市宮の丘中	3年	川村 朋奈
森町森中	3年	大江智早綺
室蘭市翔陽中	3年	工藤 彩香
岩見沢市緑中	1年	峠 さくら
森町森中	2年	大島 理絵
岩見沢市光陵中	3年	大平 結希
帯広市川西中	3年	山崎 瑞季
岩見沢市豊中	3年	渡辺 直樹
岩見沢市北村中	1年	小松 桃子
岩見沢市緑中	2年	作井 琉夏
教育大附属函館中	1年	大山 芽依
音更町緑南中	3年	上山佑季奈
滝川市明苑中	2年	前川紗希奈
旭川市常盤中	3年	坪井 綾乃
七飯町大沼中	3年	浦野 愛

## 小学校(高学年)の部

森町濁川小	6年	中谷 陽介
函館市深堀小	5年	今井ゆたか
留萌市東光小	6年	山方 彩裕
岩見沢市幌向小	6年	高橋 凜
室蘭市水元小	6年	上井 優里
留萌市留萌小	6年	宮沢 力
札幌市川北小	5年	中尾 紗
函館市榎法華小	6年	毛綱 美咲
旭川市朝日小	5年	坂田 玲
小樽市潮見台小	6年	森山 友唯
北斗市上磯小	6年	岡村咲愛璃
室蘭市海陽小	6年	三上 大翔
函館市深堀小	5年	漆畑 元基
音更町下音更小	6年	谷川 夏菜
森町濁川小	6年	平田 もえ
旭川市知新小	6年	須藤 由梨
教育大附属旭川小	6年	工藤 羊平
旭川市永山小	5年	鴻上 遊馬
函館市えさん小	5年	野呂 藍亮
増毛町別荘小	6年	櫛引 颯太

## 高等学校の部

岩見沢東高	2年	出井 有名
岩見沢東高	1年	多田 彩乃
旭川東高	2年	武田 優衣
旭川東高	2年	出村 和輝
札幌光星高	2年	小河源 舞
札幌光星高	1年	谷 愛純
士別翔雲高	3年	岡部 育未
函館白百合学園高	2年	斉藤 梨乃
函館白百合学園高	2年	川村 心花
帯広三条高	1年	小林 由依
旭川東高	2年	安藤可里菜
岩見沢東高	1年	山本 小夏

## 中学校の部

留萌市港南中	1年	野々村奏風
苫小牧市明倫中	2年	黒滝 翔太
遺愛女子中	3年	木村文絵子

## 小学校(中学年)の部

知内町涌元小	4年	渡辺 流叶
室蘭市水元小	4年	神野 晴音
北斗市萩野小	4年	岩井 冠
函館市北美原小	4年	川瀬 隼
音更町南中音更小	4年	小原 逸煌
函館市えさん小	3年	北村 賢汰
幕別町札内南小	4年	安齋 萌花
函館市深堀小	4年	小柳 佑月
函館市北美原小	4年	木下 倫仁
教育大附属函館小	3年	丹 季花
旭川市緑が丘小	4年	岸本 悠壮
北見市北光小	4年	佐々木志恩
室蘭市海陽小	4年	鈴木 詠美
沼田町沼田小	4年	城田 俊輔
旭川市東町小	4年	櫻井壮二郎

## 高文連図書専門部 第36回全道高等学校図書研究大会(石狩大会)報告

2014年10月9日(木)、10日(金)の1日半の日程で、札幌市教育文化会館をメイン会場に、北海道高文連主催の全道高等学校図書研究大会が開催された。今年は114校、参加生徒490名、教職員約152名、計642名参加で行われ、全道各地の高校の図書局・図書委員会の生徒たちの活発な活動の交流が行われた。



今大会では、生徒の自主的な大会運営を目指すことや、生徒の日常的な図書館活動の交流と奨励などを目的に『図書館活動グランプリ2014』が初めて実施された。ポスターと説明文による1次審査には39校がエントリー。予選を勝ち抜いた11校が教育文化会館大ホールのステージ上でさまざまに工夫したパフォーマンスを繰り広げ、自校の図書館活動をプレゼンした。会場の参加生徒全員による投票でグランプリ校が選出され、栄えある第1回グランプリには室蘭栄高校が、準グランプリ校には、石狩南高校、岩内高校が選ばれた。また審査員特別賞を岩見沢高等養護学校、登別明日中等教育学校、札幌南陵高校が受賞した。

分科会活動では、それぞれ、「みんなで考えよう学校図書館」「絵本の愉しみ」「つないで、つないで、つないで紹介：ブックトークを楽しもう」「唇よ熱く本を語れ！ービブリオバトルに挑戦しよう」などのテーマで、図書館や本、読書などの活動について改めて考え、交流を深めた。

2日目は北海道出身のノンフィクション作家・探検家の角幡唯介氏が、「未踏の地に行く。本を書く。」と題して記念講演。その後、図書館報コンクールと図書館活動グランプリ2014の表彰式が行われた。図書館報コンクールでは、最優秀賞に札幌南高、清水高校が選ばれ、優秀賞を帯広柏陽高校、北広島西高校、札幌月寒高校の3校が、優良賞を帯広三条高校、北見北斗高校、札幌白石高校、札幌藻岩高校、登別青嶺高校の5校が受賞した。

閉会式では実行委員の生徒数十人が壇上に整列し、次回大会の当番校、旭川北高校の代表生徒の挨拶で大会は幕を閉じた。

(文責 高文連図書専門部委員長 佐々木秀穂)

## 第56回(平成26年度)北海道図書館大会からの報告

### 第3分科会『『知の誕生』～書物の架け橋をひもとく』

講師：株式会社ポプラ社執行役員・ポプラディア事業局局長 飯田 建氏

講師の飯田氏は小中学校を中心に広く使われている『総合百科事典ポプラディア』等の百科事典の制作・広報に関わり、様々な学校、地域で講演や授業をしてこられた方である。

今回は編集者として、講演や授業の機会がたくさんあり、昨年度、一昨年度どちらも年間150回ほどの講演の内容から、本はどのようにできるのか、出版とはどのような仕事、図書館とのかかわりを話していただいた。

#### 1. ポプラディアについて

・ポプラディアについて。50音順の百科事典。子どものものはこれしかない。2002年の版をだしたのは子ども向けで久しぶりだった。2002年4月は指導要領の改訂の年で、総合的な学習の時間が始まった。出版社として何をすべきか。先生方に訊いてみたら「百科事典がない」「作れば売れるのではないか、作ろう。」と坂井さんに簡単に言われた。自分は反対した。百科事典を作るだけのノウハウがない、失敗したら会社がつぶれる。実際、何億もかかっている。いろいろ考えて、作ることにした。やる以上、自分がやらせてほしいといった。自分は副編集長、途中で移動して最後は関わっていない。



- ・まず決めたことは、全体のボリューム量。大きすぎず、小さすぎず。次に、10万円を超えないようにすること。
- ・次に50音順にすること(ジャンル別、教科別にしない)。ジャンル別、教科別は作りやすい。普通の本を作る感覚の延長でつくれる。使い勝手を考えると50音でないと使ってもらえないと思った。ジャンル別にしたら、0(NDC0番台)にまとめておかれるとは限らない。0においてもらえるようにしたかった。また、インターネット、介護保険など、どこに入れるかわかりにくいものに配慮した。
- ・つぎに、見本ページをつくった。ページ数、行数の想像をして、1項目の分量、項目数の想定をした。
- ・当時の全学年全教科の教科書を買って、言葉をリスト化した。そこに、各社の図鑑、大人向けの辞典、イミダス、知恵蔵…と加えて語のリストを作り、頻度の高いリストを作り、専門の先生方に聞いた。「二風谷アトウシ」は語のリストに出てこないが、伝統的工芸品は全部入れることにしたなど、先生方と相談して取り上げる語を決めた。2万2000語。新版は2万5000語。
- ・語のリストはできたが、すべての項目ができないと本にならない。最盛期は編集者100人。加えてカメラマンなど、ものすごい知を集めて作った。作ってみては、レイアウトの改善(写真の有無など)を進めた。

#### 2. 子どもの学びで活かすには

・子どもに授業をするときの話。図書館とはどういうところか。楽しい場所だけど、学習の役に立つ本もある。図書館の本は人類の知恵だ。集めて、分類して、手が届く場所。図書館が上手に使えることは、人類の知恵を上手に使えるということ。覚えることは大切だけど、それでは足りない。図書館を上手に使えるようになってほしい。紙と印刷は人類の偉大な発明、技術。



・図書館は集めて、「分類」している。子どもたちにとって大切な話。図書館に立つと分類を見る。見方が広がる。「稲」一つでもいろいろな面で取り上げられている。農業、食べ方…。使えるようになることが大切。

・本は工業製品で、売らなくてはならない。個人に売れるのと、図書館に売れる話はちょっと違う。図書館はエンターテインメントの場であるが、貸本屋ではない。収集しなければならない。買うべきものを買ってほしい。図書館が買わないとこの本売れない、という本はぜひ買ってほしい。

・毎日新聞8月19日朝刊。1面に学力テストの分析。4つのグラフ。総合学習を一生懸命やっているかどうかで結果に差が出ている。一生懸命やっている子は国語も算数も高得点である。総合学習はゆとり教育の批判を受けたが、総合学習は学力に直結している。ピザ調査も上向いた。日本の学力復活は総合学習が支えているという海外の分析もある。2002年の改訂で教科書がぐっと薄くなった。自分で考えさせ教育をしようという、ゆとり教育。今回の改訂でまた厚くなった。1年生はランドセル重くて大変だ。図書館の皆さんにお願いしたいのは、総合学習に注目されているが、図書館につながっていない。図書館につながるべきだと思う。総合学習は図書館を使う学習、図書館があってこそその総合学習なんだと言ってほしい。総合学習を学んだ子が、やっと教員になりつつある。1セット20万円のブリタニカが家庭用にバンバン売れた時代があったが、使われなかった。ようやく百科事典が使われるようになりつつある。新しい先生方と共に、ぜひ使ってほしい。

・日本全国回っていて、ポプラディアを通読した生徒に3人出会った。初めて会ったのは小学5年生。「ぼくはポプラディアを読んだ」という子に握手を求められ、よく聞いてみたら1巻1ページから読んだという。使い方はその日に初めて知ったという。先生から「あの子があんなにしゃべったのをはじめて聞いた」「図書館が嫌いだったはずの子なのに」と聞くことがある。この子たちは本当のことは好き、空想のことは嫌い。本当のことはしか書いてないポプラディアは、この子たちにとって楽しい本。こういう子に、ポプラディアを出会わせてあげてほしい。

・専門書とポプラディアを行ったり来たりしてほしい。

(文責 北海道学校図書館協会 研究部 浅村麻姫子)

## 学校図書館情報

### ◆第47回北海道学校図書館研修講座へ参加を 基本がわかる！ 具体的にわかる！

- ・日時 1月6日(火)～8日(木)
- ・会場 北海道立道民活動センター (かでの2・7) 他
- ・講演 「本の力 学校図書館の力  
～自己を見つめ、歴史をつづる～」  
元藤女子大学教授 渡邊 重夫 氏  
(北海道学校図書館協会 顧問)
- ・講義・実習・討議・交流の充実した3日間  
※詳しくは案内要項またはHPでご確認ください。

### ◆第42回中学生作文コンクール審査終了

各地区からの作品応募、審査協力ありがとうございます。「未来」のテーマで2万点を越える多くの作品が寄せられました。生徒数が減少する中で、前年度の応募数をわずかながら上回りました。引き続き、参加校数の拡大と応募数の増加を期待します。

- 中央表彰式** 1月6日(火) 13:00～15:00  
北洋大通センター4F セミナーホール
- 日胆地区:1月7日(水)室蘭市  
道南地区:1月8日(木)函館市  
道東地区:1月9日(金)釧路市  
道北地区:1月13日(火)旭川市

### ◆第45回学校図書館賞にご応募を！

本賞は次の3区分。(詳しくは全国SLAのHPをご覧ください)

#### 運動の部 (学校図書館運動の推進)

- ・学校図書館運動(読書運動を含む)を積極的に推進し、全県、あるいは地域の学校図書館を著しく振興させた業績を顕彰します。

#### 論文の部 (学校図書館に関する著作・論文)

- ・学校図書館(読書指導を含む)について体系的にまとめた著作・論文(博士・修士の学位請求論文は除く)で2014年3月1日以降に完成したもの。学校図書館研究および実践の発展に貢献した業績を顕彰します。

#### 実践の部 (学校図書館の実践活動)

- ・学校図書館の経営・運営、読書指導、情報活用能力の育成指導、読書推進活動などにおいて卓越した実践を展開し、学校図書館または子どもの読書の発展に貢献した業績を顕彰します。

## 事務局

事務局長 齋藤 昇一 (札幌市立藻岩中学校校長)  
TEL 011-571-6039  
FAX 011-572-3333  
事務局校 札幌市立平和通小学校  
事務局次長 野村 邦重  
〒003-0027 札幌市白石区本通15丁目北3-1  
TEL 011-863-0235 FAX 011-863-0265

## Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメニティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用ください。

### キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15  
TEL (011) 857-3331  
FAX (011) 857-5211

### ◆『島義勇伝』

10月6日発売 (エアードライブ社) 900円+税

北海道・札幌の礎を築いた開拓判官「島義勇」の物語。島は佐賀県出身。幕末に蝦夷地探検を行い、1869年(明治2年)に開拓判官として再び北海道を訪れ、今日の北海道、札幌の開拓の礎を築きあげた。



その島判官の生涯を漫画で描くことで、子どもたちに札幌のまちづくりの基礎がどのように培われてきたのかという歴史を、分かりやすく魅力的に伝えられています。郷土教育、観光振興、文化振興といった観点から非常に意義のある作品です。北海道の全ての学校図書館、公共図書館に備えたいコミックの一冊です。

## 編集後記

今年も残すところ1か月、お忙しい毎日が続いていることでしょう。本号は第60回青少年読書感想文全道コンクールの特集号です。全道各地から届いた読書感想文を読むことで、児童生徒の確かで豊かな本との出会いを感じてとても喜ばしく思います。併せて、日々ご指導に当たられている皆様のご尽力に敬意を表したいと思います。来年もより多くの子どもたちの、読書感想文コンクールへの参加がありますことを祈念しています。

(編集: 杉本 操 村山 知成 野村 邦重)  
大久保雅人 齋藤 昇一

ホームページアドレス

<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>